

尻別川水系河川整備基本方針の概要

流域及び河川の概要

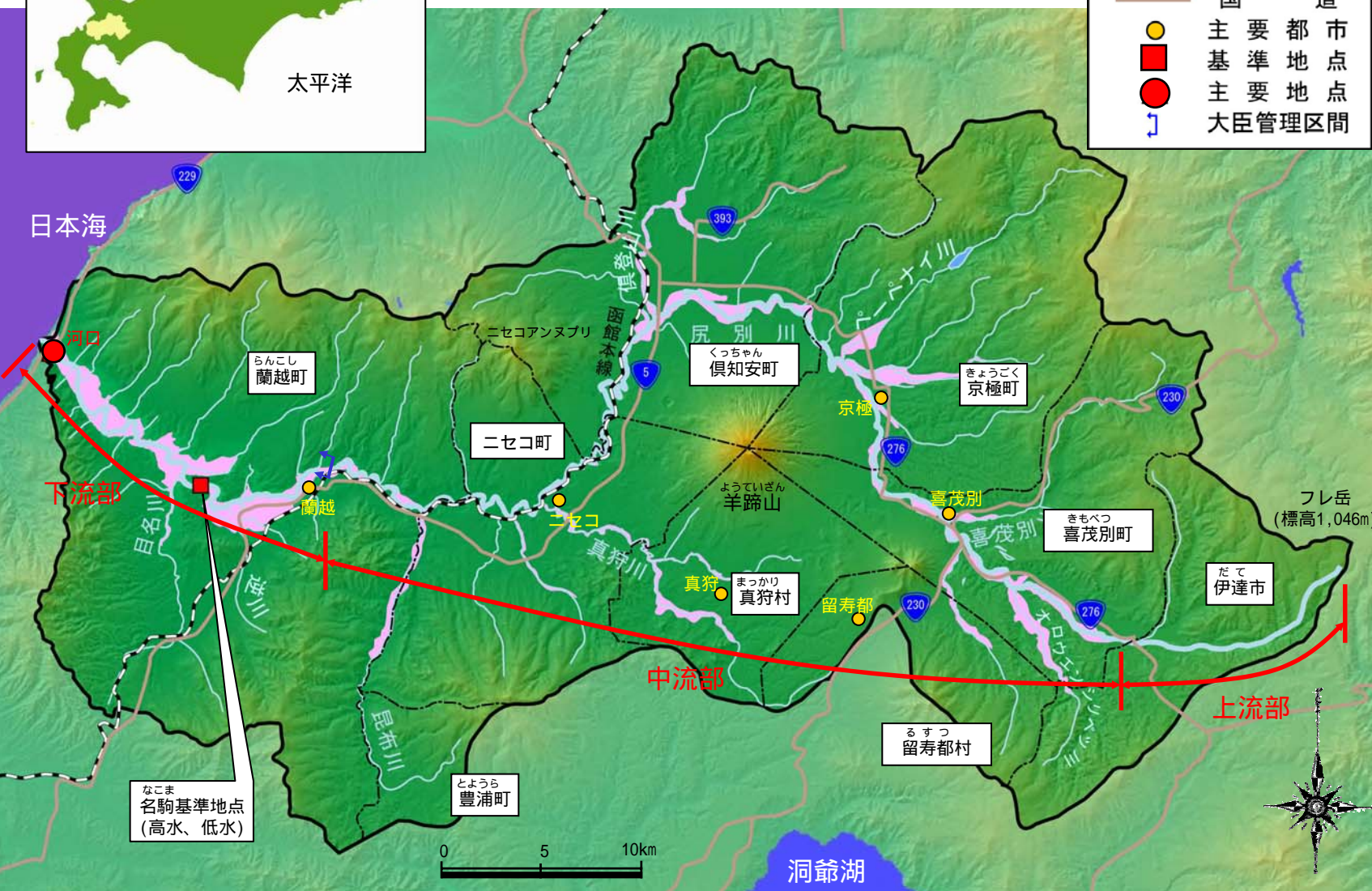
上流部は山間部の急勾配区間。中流部では畑作地帯を流れた後、ニセコ山麓の狭窄部を流下。下流部では勾配が緩やかとなり水田地帯を蛇行しながら流下。流域は馬鈴薯や良質で名高い「らんこし米」などの農業地帯として発展。近年はカヌーやラフティング、釣りなど、豊かな自然と優れた景観を利用した観光産業が盛ん。水質が良好で平成11～14年、16～18年に水質ランキング1位



流域及び氾濫域の諸元

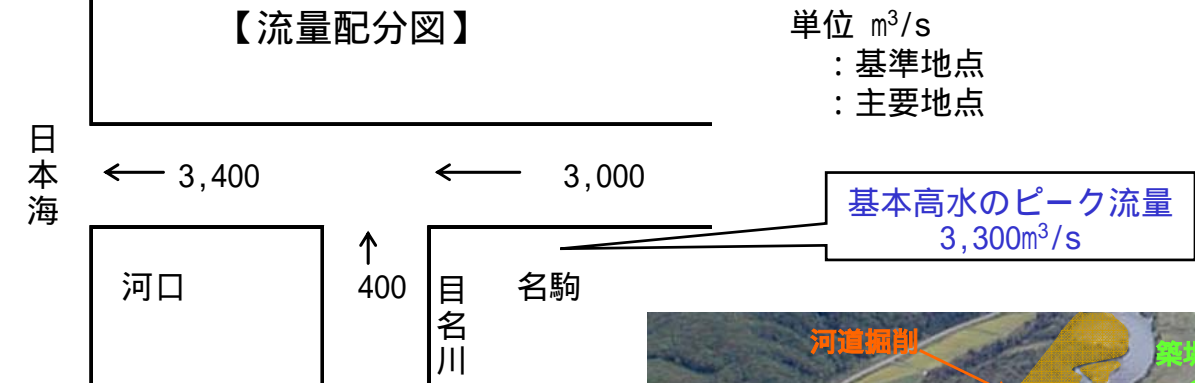
- 流域面積(集水面積) : 1,640km²
- 幹川流路延長 : 126km
- 想定氾濫区域内人口 : 約6,400人

- ### 凡例
- 流域界
 - 想定氾濫区域
 - 町村界
 - J R 国 道
 - 主要都市
 - 基準地点
 - 主要地点
 - 大臣管理区間

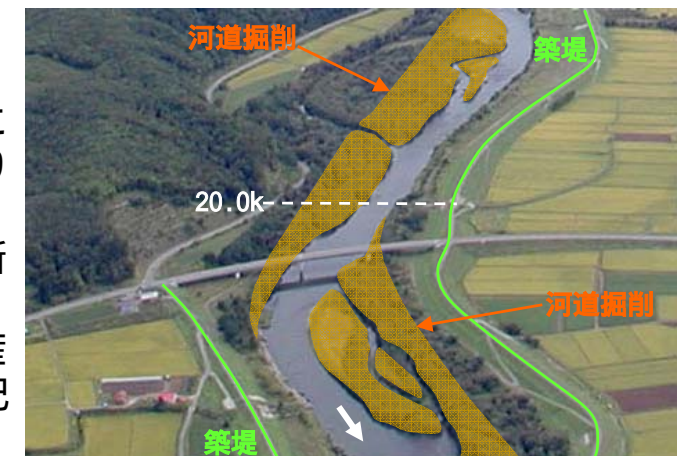


災害の発生の防止又は軽減

工事実施基本計画策定後に計画を変更するような大きな出水は発生しておらず、流量データによる確率からの検討、既往洪水からの検討等を総合的に検討し、河川整備基本方針においても既定計画と同様に基本高水のピーク流量を基準地点名駒で3,300m³/sと設定



基本高水流量と計画高水流量の差分については、既存施設の有効活用により対応。流下能力の向上を図るため、堤防の新設、改築、河道の掘削等を実施。河道掘削にあたっては、アユなどの産卵床や魚類、底生動物の生息環境に配慮



河川環境の整備と保全

尻別川を特徴づける自然環境である羊蹄山等を背景とした優れた河川環境の保全、アユ、カワヤツメ、サケ、サクラマス、イトウ、カワシンジュガイをはじめとする魚介類の生息・繁殖環境の保全に努める。関係機関や地域住民等と一体となって、自然とのふれあい、カヌー、高水敷を利用したパークゴルフ等の河川利用や環境学習の場等、多くの人々が川に親しめる空間となるよう努める。平成11～14年、16～18年に水質ランキング日本一となっており、引き続き、関係機関との連携・調整、地域住民との連携を図りながら、良好な水質の保全に努める。

河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持

広域的かつ合理的な水利用の促進を図るなど、今後とも関係機関と連携して必要な流量を確保する。名駒地点における流水の正常な機能を維持するための流量は、年間を通じて概ね21m³/sとし、以て流水の適正な管理、円滑な水利使用、河川環境の保全等に資するものとする。



アユ



羊蹄山とカヌー



尻別川せせらぎまつり